

ウミスズメ

Synthliboramphus antiquus
(Gmelin)

チドリ目
CHARADRIIFORMES
ウミスズメ科
Alcidae

カテゴリー

大分県 情報不足
環境庁 IA
水産庁 絶滅危惧種

選定理由

県内分布 全域の海上に希に見られる冬鳥。

分布域 北海道の島嶼で繁殖。東北以北の海上では留鳥。本州以南では冬鳥。北太平洋、日本海北部の海岸部で繁殖。台湾以北の太平洋で越冬。本亜種はカムチャツカから黄海までで繁殖する。

生息環境 岩の隙間の奥に営巣する。繁殖期以外は海上で生活する。潜水して小魚や甲殻類、軟体動物などを食べる。

現 状 佐賀関、蒲江、真玉、姫島の海上で観察記録がある。

備 考 潜水中に魚網にかかることがある。1997年の日本海油流出事故で被害を受けた水鳥 1,304羽の 35% が本種であった。

カムリウミスズメ

Synthliboramphus wumizusume
(Temminck)

チドリ目
CHARADRIIFORMES
ウミスズメ科
Alcidae

カテゴリー

大分県 情報不足
環境庁
水産庁 絶滅危惧種

選定理由

県内分布 県南の海上で生息する留鳥。

分布域 本州、九州の周辺の十数か所の島で繁殖。繁殖地付近の海上では留鳥。それ以外の本州南部以南では冬鳥。本州と九州の島嶼部と朝鮮半島南部でのみ繁殖。冬も日本近海のみで生息。

生息環境 日本列島周辺の暖流域にある数か所の無人島の崖や岩のすき間などに集団営巣する。雛は孵化して2日後に海上に出て生活する。潜水して魚や甲殻類などのプランクトンを食べる。

現 状 県南の海域に冬季だけでなく繁殖期にも見られるので、もし繁殖地が見つければ、日本固有種の数少ない繁殖地として重要である。近県では、福岡県沖ノ島、宮崎県枇榔島で繁殖している。釣り人の接近、人が営巣地にもたらしたネコやネズミ、カラスによる捕食、魚網による捕獲などが、本種の生息に悪影響を与えている。本種の総個体数は、5,000～6,000羽と推定されている。潜水中に魚網にかかることがある。

備 考 日本近海の固有種。天然記念物、国際自然保護連合：危急種、ボン条約付属書Ⅰ登録種。

カラスバト

Columba janthina janthina
Temminck

ハト目
COLUMBIFORMES
ハト科
Columbidae

カテゴリー

大分県 準
環境庁 準

選定理由 生息環境が島嶼部に限定されており、個体数が少ない。

県内分布 深島、沖黒島など県南の島嶼部に生息する留鳥。

分布域 伊豆諸島と九州周辺、奄美諸島、琉球諸島、隠岐以南の暖流域の島や海岸部に生息する留鳥。朝鮮半島、中国黄海と日本の島嶼部に生息する留鳥。

生息環境 暖流域にある島や海岸部の常緑広葉樹林内で繁殖する。シイやタブ、ツバキなどの実を好んで食べる。生息環境が限られているため、個体数が少ない。

現 状 生息環境が島嶼部に限定されているが、鶴見半島、佐賀関の半島部で確認されたこともある。

備 考 日本の周辺だけに生息する準固有種である。国際自然保護連合：準絶滅危惧種、天然記念物。